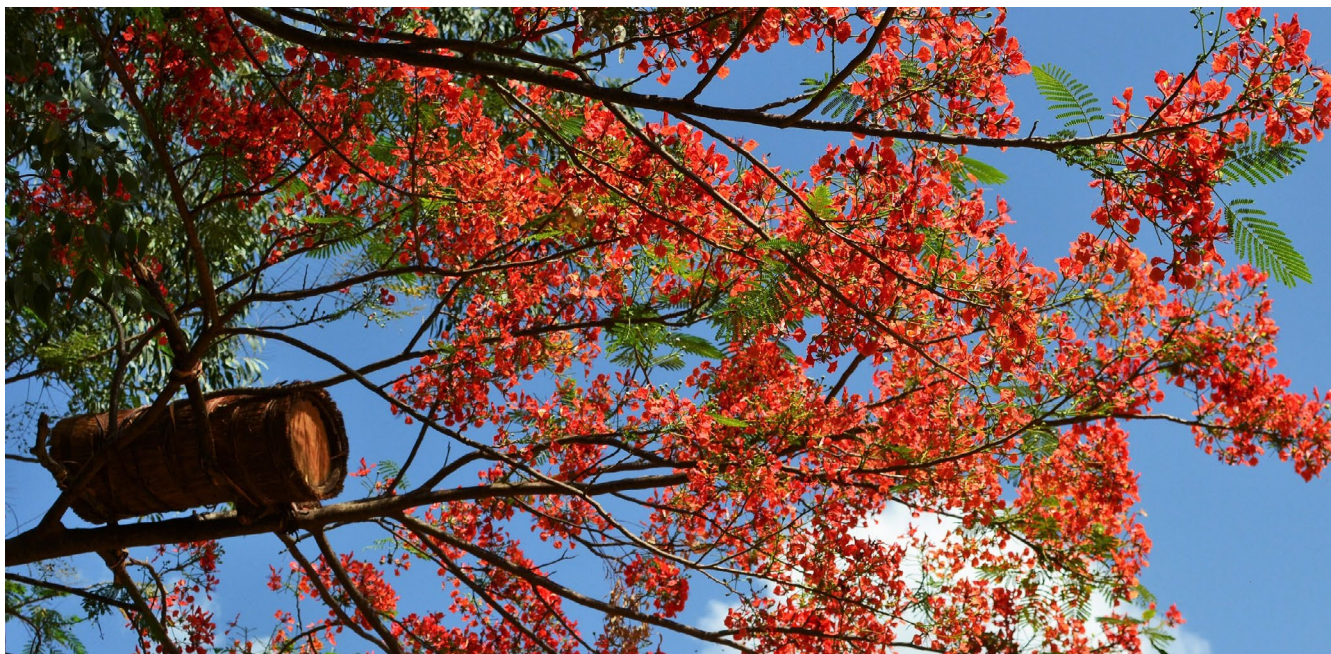


JANES ニュースレター

No. 27-1
Oct. 2019



巻頭言 新たな知的フォーラムの創造を目指して

日本ナイル・エチオピア学会会長
田川 玄

日本ナイル・エチオピア学会の初代会長である河合雅雄先生は、1992年の学会趣意書に「ナイル川流域・エチオピア高原を含むアフリカの北東部、紅海から南にはしる大地溝帯、インド洋を介してアラブに接するアフリカ東岸部、ならびにこれらと関連の深い周辺地域」を対象とした「新しいパラダイムによる知的フォーラムを創造」の必要性を説いています。そして、「この地域に関心を抱くすべての人」にとって、既存の学問領域をこえた「あらたな情報の発信基地としての機能を、国内外に発揮」することを目標に掲げています。

それでは、正会員数が百数十名ほどの小規模な本学会が、国内外に情報の発信をしていくためにはどのような方法があるのでしょうか。学会の情報発信の主な媒体は学会誌ですが、規模の大きな和文学会誌が投稿論文の不足に悩むなかで、本学会が英文学術誌を定期刊行していることは偉業といえます。この情報発信をより迅速にかつ幅広く行うための方法として、学会誌をフリーアクセスのオンライン誌にすることが考えられます。それは、当学会が目指す「新しいパラダイムによる知的フォーラムの創造」へとつながる可能性をもちます。

幸いにも、小規模学会では会員の意思疎通が比較的容易であり、迅速になにかを決めて実行することができそうです。学会の今後について会員のみなさんといっしょに考えていきたいと思っております。

目次

▶巻頭言

▶ナイル・エチオピア地域
現地／渡航情報
ウガンダ
スーダン

▶学会動向

▶会員の異動

▶編集後記

ナイル・エチオピア地域

現地／渡航情報

■ウガンダ共和国

I. ウガンダの最近の動向

2019年6月11日、コンゴ民主共和国で発生しているエボラ出血熱の患者が、ウガンダ西部のカセセ県で確認されました。その後、家族2人にもエボラ出血熱の感染が確認されました。彼らはコンゴ民主共和国においてエボラ出血熱が原因で亡くなった祖父の葬式に参列したのち、ウガンダへ入国しました。ウガンダ保健省は、27人の接触者に対して、すぐにワクチンを接種しました。21日間の経過観察が過ぎ、2019年7月24日時点では、新規感染者は確認されていません。

2019年7月17日、世界保健機構（WHO）は、コンゴ民主共和国におけるエボラ出血熱の発生状況から緊急事態宣言を出しました。国境を越えて、感染が拡大する可能性がありますので、渡航中は、最新の情報を収集することに努めてください。国境付近や人が集まるところへ近づかないことを強くすすめます。

外務省：外務省海外安全ホームページ「ウガンダ」

https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcinfectionsbothazardinfo_093.html#ad-image-0

II. 「アフリカで安全にフィールドワークするためにーウガンダ編」について

2019年3月に、『アフリカで安全にフィールドワークするためにーウガンダ編』が刊行されました。本冊子は、平成30年度京都大学全学経費「海外調査における安全確保・緊急時対応に関する行動計画検討プログラム：危機対応シミュレーションによる危機管理体制の整備」により作成されたものです。調査許可や入国ビザの取得方法、感染症、事件、事故などのさまざまな情報が盛り込まれています。ウガンダで長期にわたってフィールドワークを実施する研究者によって情報が提供されたものです。



III. ウガンダの入国ビザについて

ウガンダの空港で入国ビザを取得することが可能ですが、事前に日本で入国ビザを取得することをすすめます。日本で入国ビザを取得する場合、東京の駐日ウガンダ共和国大使館（Embassy of the Republic of Uganda, Japan）に申請する方法と、インターネット上で E-VISA を申請する方法があります。ビザの申請手続や必要書類は頻繁に変更される可能性がありますので、駐日ウガンダ共和国大使館のホームページをこまめに確認しておく必要があります。

駐日ウガンダ共和国大使館（Embassy of the Republic of Uganda, Japan）：ビザ情報

http://www.uganda-embassy.jp/visa_and_consular.html

（中澤芽衣／高崎経済大学）

■スーダン共和国

2018年12月、パンや燃料の価格高騰を契機に地方都市で生じた抗議デモはハルツームへと拡大し、デモ隊は政府の経済失策を非難するとともに、バシール大統領の辞任を求めました。デモ隊と治安部隊との間で衝突が繰り返されるなか、今年2月、スーダン政府は国家非常事態宣言を発令するなどして事態の収束を試みましたが抗議デモの勢いは衰えることなく、4月11日に、軍部はバシール大統領の解任及び統治機構の「暫定軍事評議会」(TMC)設置を発表しました。一方、市民らは権力の移譲が軍事的になされたことに異を唱え、民政移管を求めて抗議活動が続ける旨を宣言しました。

6月初旬、TMCの治安部隊は、軍本部の前で座り込みを続けるデモ隊を排除するためにテントの焼き討ちや発砲を行い、その結果多くの市民が死傷する事態となりました。これにより国内の緊張は急激に高まりましたが、7月に入り、民主化を求める「自由と変化宣言」署名派とTMCの間で会合が持たれ、8月には双方の代表者が、新たな統治機構の設立に関する合意文書に署名するなどした結果、市民と軍部の緊張は和らぎ、9月5日にはアブダラ・ハムドク首相率いるスーダン新内閣が発足しました。

日本政府は、6月にハルツームを含む一部地域の「危険レベル」をレベル3(渡航中止勧告)に引き上げましたが、9月には国内の緊張緩和を受けてレベル2に引き下げています。しかしながら、統治機構への参加を拒んでいる勢力があることや、新内閣発足後のハルツームでも市民による抗議デモが生じていることなどから、引き続き情勢には注意が必要です。

(松波康男／東京外国語大学)

学会動向

■ 2019 年度総会

2019年4月22日(日) 京都大学稲盛記念館において、日本ナイル・エチオピア学会 2019 年度総会が開催されました。議題は以下のとおりです。

議事

1. 2018 年度事業報告案
2. 2018 年度会計報告案および会計監査報告
3. 2019 年度事業計画案
4. 2019 年度予算案
5. 会計監査の選出

報告事項

1. 2020 年の学術大会の開催地について
開催日：2020 年 4 月 18 日・19 日
受 入：南山大学
2. 第 25 回高島賞の選考について
3. 評議員選挙の結果について
4. 2019-2021 年度会長および運営体制について
5. その他

2018 年度事業報告ならびに 2019 年度事業計画は以下のとおりです。

2018 年度事業報告

1. 公開シンポジウム「食と農が支えたナイル・エチオピア地域の歴史と文化」2017 年 4 月 21 日(土)、東京外国語大学アゴラ・グローバル プロメテウス・ホール
2. 第 27 回学術大会
2018 年 4 月 22 日(日)
東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
3. 第 27 回学術大会最優秀発表賞の授与
Haregewion Bekele (京都大学大学院) 演題 "The Social Matrix of Municipal Solid Waste Management in Addis Ababa, Ethiopia" (口頭発表)
上村知春 (京都大学大学院) 演題「暮らしのなかの健康：エチオピア・アムハラ州の農村における食に着目して」(ポスター発表)

4. 第 24 回高島賞の授与
田中利和会員「エチオピア ウォリソにおける農耕民の足を護る地下足袋の生産と普及に関する実践的地域研究活動」
5. 学会誌の発行・編集
Nilo-Ethiopian Studies No.23 の印刷・発送、No. 24 の編集
6. ニュースレターの発行・編集
JANES ニュースレター 26-1 号の編集・発行
7. 会費請求
2018 年度学術大会会場において参加会員に請求した。また 2018 年 6 月に請求書を送付した。
8. 評議員選挙の実施
9. 学会ウェブページの再構築
学会ウェブページを再構築、デザインを一新し情報へのアクセスが格段に容易になった。

2019 年度事業計画

1. 公開シンポジウム「アフリカで身を起こす」
2019 年 4 月 20 日（土）
京都大学時計台百周年記念ホール
2. 第 28 回学術大会
2019 年 4 月 21 日（日）
京都大学稲盛記念館 3 階大会議室
3. 第 28 回学術大会最優秀発表賞の選考
4. 第 25 回高島賞の選考
5. 学会誌の編集・刊行
Nilo-Ethiopian Studies No.24 の印刷・発送および No. 25 の編集・印刷・発送
6. ニュースレターの編集・公開
JANES ニュースレター 26-2&3 号（合併号）および 27 号の編集・公開
7. 会費請求
2019 年度学術大会会場において参加会員に請求する。また 2019 年 6 月に請求書を送付する。
8. 学会ウェブページおよびメーリングリストの更新
NES 23 号のウェブ公開、会員メーリングリストの更新など

また、日本ナイル・エチオピア学会高島賞第 25 回受賞候補として、佐川徹評議員より 1 件の推薦を受け、これについて栗本英世（選考委員長）、内藤直樹（選考委員）、村橋勲（選考委員）の 3 名による審査がお

こなわれたことが報告されました。その結果、橋本茉莉会員の『エ・クウォス——南スーダン・ヌエル社会における予言と受難の民族誌』（九州大学出版会、2018 年）について受賞に値するとの報告がありました。審査結果報告については JANES ニュースレター No.27-2 号に掲載を予定しております。

■学会体制（2019-2021 年度）

2019 年度評議委員会において、田川玄会員が本年度からの学会会長に選出されました。田川会長のもと新たに組織された学会運営幹事は以下のとおりです（以下、敬称略）。

会長：田川 玄

副会長：児玉由佳、曾我 亨

総務幹事：西 真如

総務幹事補佐：村橋 勲

会計幹事：佐藤靖明

学会誌編集担当幹事：佐川 徹（編集長）

石川博樹、川瀬 慈、利根川佳子、波佐間逸博、藤本 武、増田 研

運営委員（学会誌編集担当）：設楽知弘、橋本茉莉、目黒紀夫、若狭基道

ニュースレター編集担当幹事：有井晴香（編集長）
中村香子、松波康男

運営委員（ニュースレター編集担当）：中澤芽衣
ウェブサイト管理担当幹事：増田 研

渉外担当幹事：金子守恵

会計監査：大山修一、坂井紀公子

評議員（五十音順）：有井晴香、石川博樹、石原美奈子、梅屋 潔、太田 至、金子守恵、河合香吏、川瀬 慈、菊地滋夫、栗本英世、児玉由佳、湖中真哉、小馬 徹、佐川 徹、佐藤靖明、佐藤廉也、椎野若菜、重田真義、曾我 亨、田川玄、田中利和、利根川佳子、内藤直樹、中村香子、縄田浩志、西 真如、西崎伸子、波佐間逸博、藤本 武、眞城百華、増田 研、松波康男、宮脇幸生、村橋 勲、吉田早悠里

■第 28 回学術大会・公開シンポジウム

2019 年 4 月 20 日・21 日に京都大学において第 28 回学術大会がおこなわれました。大会 1 日目には百周年記念館百周年記念ホールにて公開シンポジウムが、大会 2 日目には研究発表がおこなわれました。



公開シンポジウム登壇者：左から合田真氏、田中利和氏、宮下芙美子氏、長谷川竜生氏

大会2日目の最優秀発表賞には Choi Eunji 会員（京都大学）が選ばれました。各日の発表演題と発表者は以下のとおりです。

【大会プログラム】（敬称略）

大会1日目

公開シンポジウム「アフリカで身を起こす」

14:00 趣旨説明

14:15 基調講演

「探検部活動としての起業～探検部・吉田寮で学んだこと」

合田真（日本植物燃料株式会社・代表取締役社長）

14:50 パネルディスカッション

「エチオピアと地下足袋を起こす」

田中利和（東北大学東北アジア研究センター・学術研究員、Ethio-Tabi）

「かわりあい続けること——研究、協力、ビジネスを通して」

宮下芙美子（COTS COTS LTD.・Managing Director）



公開シンポジウム パネルディスカッション

「良質なおやつを、アフリカで作る」

長谷川竜生（Matoborwa Co. Ltd.・Managing Director）

16:10 総合討論

大会2日目 研究発表

「エチオピア南西部におけるヘルス・エクステンション・ワーカーによる保健衛生活動について」鈴木功子（京都大学）

「共に暮らすことから形成されるケアとリハビリテーション—ケニアの障害者支援施設の事例」善積実希（京都大学）

「1970年代のエチオピア北部における天然痘封じ込め作戦：寄生虫学者・木村英作氏による活動記録アーカイブより」増田研・猪狩友美（長崎大学）

「Ethio-Tabi の創造に関する実践的地域研究③ウォリソにおける地下足袋の販売と宣伝に関する課題」田中利和（東北大学）

“Tera Askebari, Informal Leaders or Formal Servants?: Minibus Conductors under the Formalizing Policy in Addis Ababa” Choi Eunji（京都大学）

「無形文化遺産の担い手とは誰か？：エチオピアのガダ体系を事例として」田川玄（広島市立大学）

「首長の権力に関する歴史的考察—南スーダン、ロピットにおけるモニョミジ・システム」村橋 勲（京都大学 / 日本学術振興会）

「アムハラ州の農村家庭に常備される醸造酒 t'äla の社会的役割」上村知春（京都大学）

「タンザニア熱帯雨林におけるアグロフォレストリーの動態—アマニ地域における持続的な木材生産に着目して」小林淳平（京都大学）

「ケニアにおける契約農業の多様性—住民組織化から見た地域社会への影響について」
久保田ちひろ（京都大学）



研究発表のようす
会場：京都大学稲盛財団記念館 3 階大会議室

会員の異動

■入会者（入会年／所属）

【一般会員】

大山 修一（2019／
京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科）
高橋 基樹（2019／
京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科）
小林 義明（2019／
在大阪エチオピア連邦民主共和国名誉領事館）

【学生会員】

Gabriel TESFATSION（2019／筑波大学）
Eunji CHOI（2019／
京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科）
鈴木 功子（2019／同上）
小林 淳平（2019／同上）
久保田ちひろ（2019／同上）

■退会者（退会年）

日高 敏隆（2018）
江端 希之（2018）
板垣 順平（2018）
吉野 宏志（2018）
島津 英世（2019）
庄武 孝義（2019）
京都文教大学図書館 雑誌担当者（2019）
青木 澄夫（2019）
上田 富士子（2019）
上田 将（2019）
Robel Haile Gebru（2019）

▶編集後記

2019 年度よりニュースレターも新たな編集体制となりました。今年度より、可能な限り新しい情報を素早く発信できるよう年 2 回の刊行としたいと思います。充実した紙面作りに編集員一同、尽力して参りますので、会員のみなさまのお力添えのほど、どうぞよろしくお願いいたします。（有井晴香）

巻頭写真：エチオピア・2018 年・有井晴香撮影
公開シンポジウム・学術大会写真：2019 年・村橋勲撮影

JANES ニュースレター No.27-1

2019 年 10 月 7 日配信

編集・配信

日本ナイル・エチオピア学会

編集委員

有井晴香 中澤芽衣 中村香子 松波康男